

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和5年12月23日（土） 9：30～11：00
場 所	毛呂山町立泉野小学校 A校舎1階会議室
参加者等	小学校保護者（泉野小学校） 4名
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 佐藤学校教育課指導主事 谷津田教育センター指導主事 市川教育総務課庶務係長 深井教育総務課庶務係主任
発 言 者	内 容
石田課長	<p>それではおはようございます。まだお見えになっていない方もいらっしゃいますけれども、既に皆様を5分ほど待たせていただきましたので、ここで説明会の方を開始させていただきたいと思います。本日は、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。このたび教育委員会では、子どもたちにより良い学校のあり方について再検討をし、学校教育における課題、今後の児童生徒数の推移、必要とされる教室数、維持更新などの教育的課題を解決するために、最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小・中学校学校編成計画（案）を策定いたしました。本日の説明会は、この編成計画（案）に関しての説明会となっておりますので、よろしくお願ひいたします。本日の説明会でございますが、人数の把握をするために事前に参加希望者を募り確認をさせていただきました。ご協力をありがとうございました。また、急遽人数の関係から会場を変更させていただきました。ご迷惑をおかけいたしました。本日も、説明会の時間は約2時間というふうに考えておりますけれども、2時間の中には質疑応答の時間もございます。その質疑応答の時間の関係では、もう少し時間の方が早くなったりすることもあると思いますので、ご理解をお願いいたします。また、併せて撮影及び録音についてはご遠慮いただきますようお願いいたします。なお、教育委員会の議事録作成のため、この会議の内容の方は、録音を取らせていただきたいと思いますと思うのですが、そのところはご了承いただきたいと思うのですが、議事録の方を作成して、個人の方どなたが言ったとかそういったところはわからないようにいたしますけれども、こういう説明会の中で、こういう意見がありましたということ例えばホームページなりで公開していきたいというふうには考えております。そこところはご理解いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。それでは、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会を開催したいと存じます。最初に、教育長よりご挨拶をいたします。</p>

高沢教育長	<p>改めまして、おはようございます。教育委員会の高沢でございます。</p> <p>本日は、学校編成計画（案）の説明会にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。日頃より保護者の皆様、また地域の皆様には各小中学校の教育活動にご理解とご支援をいただきますこと感謝申し上げます。ありがとうございます。昨日、小中学校の方は2学期の終業式を迎えました。今日から冬休み、また年末年始の生活を子どもたちが地域・家庭でするわけなんですけども、是非様々な場面で安心安全のご指導、またお話等をしていただけたらありがたいかと思えます。昨日午後ですけども、町内のこの近くで火災がありました。ちょうど学校で子どもたちが帰った後のことだったので、下校等に支障は無かったんですけども、やはり地域でこのような火災がありますと本当に心配はあります。無事に子どもたちが2学期を終えたことも踏まえて、3学期を迎えられるようにまたご指導を重ねてお願いしたいと思います。</p> <p>さて、教育委員会の方では、少子高齢化の中で子どもたちがよりよい環境で学習をするためのプランとして平成25年度から町内各関係機関の方々にご意見等をいただきながら、提言をいただきながらそして平成30年度に未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～というのをまとめさせていただきました。これですすね、今後の小学校中学校のあり方等について検討させていただいたんですけども、ご案内のとおり、35人学級の推進ですとか、あるいはコロナ禍の中で、この考え方の推進が少し途絶えてしまったことがございます。そこで、昨年度この検討を更に深めるために毛呂山町小中学校のあり方検討委員会の方を設置させていただいて、委員の皆様からご意見をいただき、今後のあり方についてさらに再検討させていただきました。環境は人を作ると言われておりますが、子どもたちにとって、環境とは人でありまたそれを学ぶ施設であります。その中で、友達との交流、あるいは先生方との交流、地域の皆様からのご支援と子どもたちの成長に合わせて関わってくる多くの皆さんの人的存在、そして学校施設等望ましい環境整備、これをですすね有効に私たちも是非考えていきたいということで、今後の学校のあり方について再検討させていただきました。校舎の作りですとか、あるいは教室内の様々な備品、使う教材等についても学校では十分考慮して子どもたちのために考えて使わせていただいております。そのような形でですすね、今後子どもたちによりよい教育環境を提供させていただいて、毛呂山を担う子どもたち、将来を担う子どもたちの育成を考えて参りたいと思えます。併せて、今日この未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～に沿った学校施設の考え方というのを今日は説明させていただきます。また、皆さんからのご意見等をいただきながら、地域の皆さんと協力させていただきながら、このプロジェクトを推進していきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたし</p>
-------	---

	<p>ます。本日は、貴重な時間ではございますが皆様と一緒に、今後のことについて説明させていただきながら、ご理解をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>ありがとうございました。 本日の説明会に際し、職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
石田課長	<p>以上、よろしくお願いいたします。 それでは、これから教育総務課道地副課長より説明をいたします。その後のご質問などに対するご回答の方は、着座にてお答えしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
道地副課長	<p>改めまして、おはようございます。教育総務課の道地と申します。本日はよろしくお願いいたします。説明会に入る前にお配りした資料の確認をさせていただければと思います。次第、資料、あと感想記入用紙になります。お手元にありますでしょうか。感想記入用紙におきましては、申し訳ございませんが何かございましたらご記入いただき、お帰りの時に受付のカゴの方に入れていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。今回の説明に関しましては、この資料を元に進めさせていただきますが、大変申し訳ございません、この資料白黒でございますので画面を見ていただいた方がわかりやすい部分がございますので、画面を見ていただければと思います。それでは私の方から小中学校の編成計画（案）について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。</p> <p>初めに、実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のよりよい教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p> <p>平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的にも大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きの中では「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校</p>

では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされており、学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みやすく社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられます。そういった形で、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございしますが、9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思っております。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料でございしますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加していきます。いわゆる少子高齢化です。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えているのがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転しているのがわかると思います。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況でございします。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人という形になります。こちらは、児童のいる世帯の状況となっております。右側の白い部分が児童のいない世帯になってございしますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っているのがわかると思います。こちらは家族の中で、対人関係を形成する組み合わせを示したものでございま

す。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなっています。そのため、学校において多様な人間関係を体験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移となっております。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、今年令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しているということとなっております。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計となります。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推計されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級数となっております。令和11年度以降なんですけれども、光山小学校、泉野小学校の全ての学年で単学級となる見込みとなっております。続きまして、教員数についてでございますが、小学校で校長・教頭を両方含めて事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校はすでに1人となっております。泉野小学校はこちら令和9年度となっておりますが、令和7年度からですね、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度でございます。町の小中学校は6校ございますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況でございます。こちらは、小中学校の改修の状況になります。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後ですね、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、ここの通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジ

ェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになってございますので、後ほど資料の方で確認させていただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いでございます。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることで更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それではですね、令和3年度に小中一貫教育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思います。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っております。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に

中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間を分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のよりよい教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等でございます。まず、川角中学校区でございます。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級でございます。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。

統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区でございます。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地でございます。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級でございます。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定となっております。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージでございます。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横側のあたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果でございます。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してのスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になるんですけども、お示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果でございます。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものに



なりますが、イメージとなってございます。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生が一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているため、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございます。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備でございますが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところでございますが、お示しいたしております。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えております。毛呂山中学校校舎のイメージでございます。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという

	<p>気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。今後のスケジュールでございます。12月から1月にかけて編成計画（案）を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、3月に計画の策定と考えています。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。私からの説明は以上となります。ありがとうございました。</p>
石田課長	<p>ありがとうございました。それでは、ただいまの説明に対しまして質疑応答に移らせていただきたいと思います。手を挙げていただき、その後名前を名乗ってからの質問とさせていただきたいと思います。何か質問などはございますでしょうか。どんな他愛ないことでも結構です。</p>
A	<p>ちょっといいですか。Aですけども。小中一貫のスクールバスに関してですが、小学生までですか。中学生は含まれないんですか。</p>
道地副課長	<p>スクールバスに関してましては、児童の部分を考えておりますので中学生に対するスクールバスはございません。</p>
A	<p>ないんですね。</p>
道地副課長	<p>はい。</p>
高沢教育長	<p>基本的に、中学生は今までとおりの距離が遠い子に関しましては自転車通学を認めておりますので、そちらの方で対応させていただく予定になっております。</p>
A	<p>バスがあっても。バスがあっても自転車で。</p>
高沢教育長	<p>はい。バスは児童・小学生対象というふうになっています。</p>
A	<p>中学生は使えないんですか。</p>
高沢教育長	<p>中学生は基本的に自転車通学を考えております。</p>
A	<p>同じ場所ですよ。</p>

高沢教育長	先ほど説明させてもらったとおり、小学生の通学時間・通学距離を考えて安全確保のためのバスの運行と考えています。
A	それはわかるんですけど、自転車の通学とバスの通学だと事故のリスクで考えたらバスの方が断トツリスクが違うじゃないですか。それでも、自転車で通う。同じ場所なのに。小学校はバスで行けて、中学校に上がった瞬間に自転車という形になるんですね。それはだめなんですかね。
高沢教育長	また検討させてもらいます。今のところはスクールバスについては小学校児童を対象にしています。
A	今までバスに慣れていたのが、いきなり自転車っていうのは抵抗が掛かるとおもいます。
石田課長	そのほかに質問ございますでしょうか。
B	令和11年に目標を定めたのは、これを見ると工事の関係っていうイメージかなと思うのですが、予算を分けて執行しなくてはいけないから令和11年になったのですか。
石田課長	令和11年に両校区を定めたというご質問だと思うのですが、まず町の方では8年・10年ということで学校統廃合する年度を個別施設計画の方ではお示しさせていただきました。その前にですね、先ほども説明しましたとおり現在の児童生徒が減っていく状況であるとか、施設の状況であるとか、教職員の数であるとか、そういうところを総合的に考えてまずは学校を各中学校区ごとに1つにした方がよいという方針を定めまして、その年度を実施計画でお示したところです。その間もコロナであったり、35人学級であったり、色々な状況の中で再検討した中で、なぜ11年になったかというようなご質問だと思うのですが、児童生徒の数もどんどん減っておるとい状況、施設も老朽化が進んでおるとい状況、そして児童生徒が減ることによって教職員数が減っているという状況を総合的に考えて、ただ工事をそこに持って行ったということではなく、できるだけ早くこの状況を解決できないかというところの年度設計となっております。工事の方は、そこに開校するためにこのくらいの年度が必要だということでお示しさせていただいております。
B	気になったのは、令和9年度も11年度も児童数とかはあまり変わらないので、やるって決めたのであれば9年度を基本にしてやってもらった方が

	いいかなと思ったので。そう考えて、11年までに伸ばすのって工事とかあとは予算の絡みかなと思ったので。できるだけ早いほうが、やるって決めたのであればいいのかなと思ったので。
石田課長	そうですね、まさに教育委員会のほうはできるだけ早くこの状況を改善しようというような中での年度設計となっております。
石田課長	ほかに何かございますか。
C	Cです。もし、今ご意見があった内容で、もしも早く進めるとなった場合は、今現在、令和11年としての案ですけども、もし早く進めるとなるとある程度早くまた周知しなくてはならないということもありますか。
石田課長	年度が変わるかという、もっと早く変わるかというご質問だと思うのですが、工事の準備もございます。そういった関係で、早く進めるにしても11年度というふうに考えています。
C	準備等いろいろあると思うので、早くてもじゃあ進めるとなると11年。
石田課長	今、11年というふうに考えております。
C	早くなるってことはなかなか今のところはそういったご意見があっても。結局、川角中なんかはグラウンドを敷地内を宅地に変えるわけですよ。宅地に変えたりとか色々準備があるわけですよ。申請というか。
高沢教育長	校舎をグラウンドに建てることに関して、地目の変更とかってことですか。
C	はい。ああいうのも時間がかかるわけですよ。
石田課長	今のは毛呂山中学校区ではなく川角中学校区に対してのご質問だと思います。そういった細かい手続き、今おっしゃられた細かい手続き、工事の設計なども含めてこのくらいの工期年度は必要だと考えています。ただ、今おっしゃった細かいところに対して、実際必要うんぬんというところは、もうすでに学校が建っておる敷地となっておりますので、そのあたりは大きな問題はないと捉えておりますけども。

道地副課長	川角中学校区は令和7年度に基本設計というふうに記載が入っているかと思うんですけども、この基本設計をもって先ほど示しました増築場所であったり他の法律等の整合を図りながら決定していくという形になっております。そういった形を踏まえると、どうしても川角中学校区に関しては、令和11年度が一番早いというような状況になっております。
高沢教育長	この空白がありますけども、実は諸準備等もありまして、基本設計の前におおまかな設計、例えばこのところに水道管が入りますでしょうかとかガス管が入りますでしょうか、水流れとか電気の関係とかそういうのも調査して、それからここには建ちますよ、もう少し場所を変えましょう、あるいは建物の構造を少し変更する必要がありますよなんていうのを考えながら、ここで設計が出て、早速次の年から実施設計というふうになりますので、この工事をやる前にいろいろな手続きがあるということなんです。毛呂山中学校のほうは、毛呂山小学校のA棟、前の建物を大規模改造いたしますので、そのためにもやはり同じような設計をここでやらなければいけない、その前に校舎の作り等の様々な障害がないように準備をさせていただいてということになりますのでその期間が1期工事、2期工事も含めると3年は基本的にかかってしまう、もちろんその前に基本設計等も含めるとその年度は必要であるということで、できるだけ私たちも早くこの事業を進めていきたいんですけども、このような建物の制約があるとやはり直近で11年度。それから、川角中学校のほうの校舎に小学生が入ったり、あるいは泉野小学校の児童を毛呂山小学校のほうに入れたり、教室等の確保しながらやっていかなければいけませんので、そうすると総合的に考えて11年度が一番早い時期というふうに考えています。
C	もし、工事を行うとなると夏休みを利用するんですか？
高沢教育長	私、校長の時に毛呂山中学校の1期工事の時にちょうど工事でした。あの時は2つに分けて工事を2年度かけてやりました。川角中学校のほうは、大規模改造を毛呂山中学校より前にやったんですね。あの時は、教室の中の備品とかを分けてやりましたので、年度は1年だったんですけども、その期間、ある程度の期間をいただかなきゃいけないので、例えば夏休みを少し前倒しで早く始めて、夏休みの期間を長期的にとって、その期間で工事をやってもらったりとかいうので、工事を2期に分けてるのはやはり建物を2つに分けて工事をしたりするのもそういうのも可能かどうかについても基本設計の方できちんと計画を立ててやっていかななくてはならない。様々な障害がどのようなものがあるか、それぞれをどのようにクリア

	<p>できるかことを総合的に考えていかななくてはいけないので、そうなると思われる程度の期間が必要ということになります。</p>
C	<p>わかりました。</p>
高沢教育長	<p>ですから子どもたちの学習の機会はきちんと確保してやるために、どれくらいの期間が必要か、どこにどのように移設して学習を保障するかということもあります。毛呂山中学校の大規模改造、川角中学校の大規模改造を本町は経験していますので、その時の経験は生かせると思います。</p>
高沢教育長	<p>11年のことなんですけれども、先ほども言ったとおり、6年・7年、空白のところも何もしないというわけではなく、その下準備は綿密に立てて設計に臨んだりあるいは工事に臨んだりしますので、じゃあ8年度、7年度っていうのはちょっとそれは十分可能じゃないということは想定されます。</p>
B	<p>その部分は、しっかりそうやって記載してもらった方がいいと思います。普通の感覚で言ったら、何でこんなにかかるのかよくわからないし、児童のためだって言ってやっていただいている計画なのに、結局こういう計画を出されてしまうと、今日も300人の中でこの人数しか来ていないので、親もそんなに興味ないと思うんですけども、やっぱり明確にこのくらいかかるかを記載していただいた方が、一般の人とかも納得しやすいと思うので。</p>
石田課長	<p>そのほかにありますか。どのような形でも結構です。</p>
A	<p>一体型と隣接型って2つに分けてもらってるのですが、何で2つに分ける必要があるんですか？</p>
石田課長	<p>教育委員会の方では、小中一貫教育の説明にあたりまして、施設の関係や総合的に考えた中で、一体型がよいというふうの方針を定めております。その方針に対して、川角中学校区の方は、川角中学校の敷地の中に校舎が入り、そこで生活ができるということもございます。毛呂山中学校区の方は、まずは校舎を建てるという場所もところもございまして、何よりも施設が非常に近い位置にあって、なおかつ橋でつながっているという状況の方をうまく利用しての隣接型の方の小中一貫教育を行っていくというふうに判断したわけでございます。</p>

A	最初に2つに分けて何か違いがあるんですか？
土屋課長	<p>学校教育課長の土屋です。一体型と隣接型というところではあるんですが、教育効果といたしましてはかなり近いものがあるって、ほぼ変わらないというような形でですね、教育総務課長から話があったように、川角中学校区で考えると、川角中に隣接している学校はございませんので、川角中学校なんですけど、こちらグラウンドについては毛呂山中学校よりも広いものなんです。なので、敷地もそういったところで増設校舎も建てられるということなので、より教育効果の高い一体型を入れていく。毛呂山中学校区については、本当に隣接している状況もありますし、先ほど紹介があったように小学生が中学校の校舎に入って1日過ごすこともできる環境ではありますので、こういったところから隣接型については一体型とかなり近い教育が行えるということで、ほぼ変わらないというようなところで立地条件を含めて検討した結果となっております。</p>
A	行き来できる橋があるからできるという話で、実際にどうかというのはまだわからないんですか？
土屋課長	実際もうすでにもう行き来しています。
A	しているんですか？
土屋課長	はい。今度の1月26日も実際小学生がまた来てですね、中学校の中で授業を受けるという形が今現在進んでおります。
A	見た瞬間は、ただ単に小学校が泉野小と毛呂山小がくっついただけで、後は変わらないかなと思ったのですが、実際、それじゃ一体型ということで。
土屋課長	<p>そうですね。実際に敷地が一体になっていますので、あとは中の教育的なカリキュラムの中でこの後また、今は時間割上というか、時程はまだ小学校・中学校別々の時程ではあるんですが、これをどんどん揃えていくことで、ズレも少なくなった状態で教育を行うと、より小学生が中学校校舎の中で授業を受けられる環境が整っていくところでもありますので、そちらで進めて参ります。</p>
高沢教育長	補足いいですか。先ほど、教科センター方式っていうので、数学科室・英語科室を設けるといった話が出たと思うのですが、今小学校の方で

	<p>は、音楽の先生とか英語の先生については専科の先生で授業をやったりして、算数など理科などについても、担任じゃない先生が高学年で授業を行ってさせてもらってます。これは、来年度以降県の方もさらに理科・英語・体育・算数のこの4科については、できるだけ専科の先生を配置してより専門的な授業をやっていきましょうというふうに先生方を増やしていくプランを持っています。小学校の先生に全部お任せとなると、なかなかその教科に特化した部門も難しいので、中学校の数学・理科・英語・体育の先生を小学校の先生と一緒に授業をやることによって、授業の内容をより専門的な内容を子どもたちに提供することができますので、そういう教科センター方式を今後取り入れたりすることで、小中の壁を無くしていったり、あるいは高学年の児童が中学に入ってつまづきや人間関係等の悩みがなくなるような、うまく中学校につながっていくようなそういったこともやっていって、9年間で児童生徒を見ていきましょう、教育していきましょうというようなプランを今は持っていますので、それを今後やりやすい方向でいくとなると、やはり学校が同じ敷地内、あるいは隣接でやった方がいろんな時間的な負担とか子どもたちの負担がないので、そういう面でメリットが十分ありますよということでこの教育を進めていきたいということで、この施設形態にさせていただきたい。だから、11年度からといってもすでに小中の交流をやっていますので、さらにその内容を効果的なものに私たちはしていきたいというふうな見解でございます。</p>
C	<p>Cです。私の娘がもうこの年度には卒業してしまって、関わりはないんですけども、実際目白台にお住いの保護者さんが、例えばこの年度以降に学校の役員をやらせて学校に会議だとか集まりに参加されるときに、ちょっと用があった場合についても、雨が降ったりした場合についてもどうしても足の不便というか、車で学校に行けないっていうのが、自転車で行くのが、どうしてもそこが引かかるというか。今、目白台から泉野小に役員会とかで会議に参加するのについても、自転車で来ていただくのが困難という人もいらっしゃるの。さらに、毛呂小となるとそれが約倍になるので、それがどうしてもなんか私自身役員をやっているのだからそこが引かかるのですね。</p>
土屋課長	<p>今お話されているように、例えば毛呂山中学校であれば役員会議等が夜やっておりますので、全然車で来ていただいて構いません。なので、中学校ベースで考えた場合、車で来ていただくこともありますし、あとは行事関係の時には役場の駐車場を借りて特定の方には駐車券を出している事例もあります。そういった形で、学校の敷地の駐車場だけで足りない時もありますし、そういった時は近くの公共施設の駐車場を借りていくような工夫</p>



	<p>を今までもしていますので、そういったことで対応をしていくことが可能であると考えております。あと、役員の方であれば、すごい大人数というところではないと思いますし、職員の駐車場を使っただけでも構いませんし、あといわゆる三者相談等々があった場合についても、時間等によって相談をしながら、また近隣の敷地を借りられないかということも検討しながら対応はできると思いますので、それについては、また対応で今後も引き続きやっていければいいのかなと考えております。</p>
C	<p>昨日もちょっと集まりがあって、今ちょうど1歳のお子さんがいらっしゃる保護者さんからも駐車場が無いよねっていう話を耳にしたので。</p>
土屋課長	<p>今現在泉野小の集まりで駐車場がないということですか。</p>
C	<p>基本、自転車や徒歩でここに来ていて、距離がまだどうにかなっているので、更にそれが倍になるというので。</p>
土屋課長	<p>なので、正直どの学校も保護者の方全員に車でお越しく下さいというくらいの駐車場の整備ができているかというあまりないと思います。そうした中で、なるべく近くの方には、できればとお願いしているところではおそらく変わらないと思います。さらに距離が遠くなっていくところもあると思うのですが、先ほど言ったように毛呂山中学校については、遠い方には駐車券を配布したりとかそういった配慮を学校の中でしていきますので、そういった集まりがあるとかまた精査しながら、今回泉野小学校が毛呂山小に入るということであれば、当然遠くから来ていただくこととなりますので、駐車券を配布する対象になると思いますし、そういった対応も今後十分考えられますので。すごい駐車場を整備するとなると難しいですし、子どもの活動場所が限られてしまいますので、そこはご理解をいただきながら近隣の駐車場を借りる場合もあれば、駐車券を出して時間帯等を分けて、イベントによっては内容によっては、場合によっては乗り合わせになってしまうかもしれないけど、何台かは職員駐車場を開けていくようなこともありますし、そういった工夫をしていきます。施設隣接型の毛呂山中学校区については、毛呂山小と毛呂山中の職員駐車場も使えますので、どういう活用をするのかは十分検討できるかなと思いますので是非ご安心ください。</p>
C	<p>毛呂山中は子どもが在籍していたときに役員になったときは夜会議だったので、車で行けたのですが、毛呂小については車でいけないということがあったんですよ。</p>

土屋課長	会議の時間がおそらく児童が帰る時間とぶつかっちゃった時とか、そういった危険性も言われていると思うんですね。なので、また逆に今度は毛呂山中の駐車場が使えないかという交渉もできると思うんですね。時間帯によっては、中学生も当然活動をしているので、時間帯によると思うのですが、早めに言っていただければ例えば役場の駐車場であるとか、近隣施設のものっていうのは考えられると思うので。
C	臨機応変に対応していただかないと。晴れていればいいのですが、雨が降っていると特に思うので。
土屋課長	正直、今現在も対応しなければいけない課題ではあるかなと捉えましたので。一体型とかという前に学校のほうで今から考えていかなければならない問題であると思います。特に、車社会になっていますので。
C	確かに。でも、難しいですよ。場所もありますからね。
土屋課長	そうですね。個人的には自分の子どもの学校の関係で、これだけ車社会になっていて、正直全然駐車場がない学校なので、かなりきついとは思いますが。
D	同じ話になってしまうのですが、目白台に住むときは目白台の中に小学校ができるからということで家を買ったんですけど、それからしたらかけ離れたことが起きてきているので、もう今からおっしゃってくださったように是非お願いしたいのですが。今回の説明なんかも駐車場がないことで、車ではご遠慮くださいとしか書かれていなかったもので、この時点でもう聞けないやって諦める方がいらっしゃると思うので、だからこの人数になっちゃっていると思うんですけども。なので、そこでの対応が駐車場の確保も必要かもしれないですけども、今デジタル化になっているので、ZOOMとかも使っていただいて説明会を開いていただいたらいいかなと思います。オンラインを是非、子どもたちもタブレットを持たれているので、子どもたちも聞けるような環境もあってもいいかなと思いますので、是非今後ともよろしくお願ひします。
石田課長	貴重なご意見をありがとうございます。オンラインでの双方の意見交換はまだそこまで追い付いていないというところがあるということもご理解いただいているところだと思うのですが、Dさんがおっしゃった部分で、この状況を来なかった方がわからないというところが、また大きな課

	<p>題になると思いますので、この説明内容を資料だけではなく、わかるような説明するものをしっかりとまた皆さんが見られるような状況にしたのちのご意見をいただけるようなそういうような形にしていきたいと考えてますので、ご理解をよろしくお願いします。</p>
D	<p>そうでないと、反対意見の方の署名運動が始まっていて、実際のところ目白台も回られている方がいらっしゃって、だったらうちとしては小学校の近くにといい意見があったんで、こういう細かいところを知らないの、そこに同意するという形をとらせていただいた現実もありますので、説明不足というところをもうちょっと解消していただけたらいいかと思いますのでよろしくお願いします。</p>
石田課長	<p>貴重なご意見をありがとうございます。今日も人数が少ないという中ですので、忌憚のないご意見をいただければこちらもお答えしたいと思いますし、参考にさせていただける部分はお預かりしたいと思いますので、是非是非ご質問・ご意見の方をお願いしたいと思うのですけれども。</p>
D	<p>同じ話になっちゃうのですけども、うちは小4なんですけども子どもが。ちょうど工事の時に中学に入っている状態なので、先ほど教育長さんがおっしゃっていたように学習の確保はちゃんとしていただきたいのと、受験に向けてお願いしたいと思います。改築の方に向かないで、ちゃんと足元を見ていただきますようお願いします。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。Dさんのご意見というのは、流れの中の説明というよりも、保護者の方としての非常に大切な意見になると思うんですね。学校の方に通っている中で、このタイミングで在籍する形に対する心配というのも保護者の方であればそういうご質問・ご意見も出てくると思いますので。</p>
石田課長	<p>時間の方は11時半までを予定しているのですけれども、直接ご質問がないということであれば、その後にご感想をいただく用紙も配っておりますのでそちらに感想等を記入していただければと思います。</p>
C	<p>川角中学校区の方で、敷地の関係で教室の窓が東側になるんですけど、朝はいいけども日中11時くらいになると太陽がこっちに来るので教室が暗くならないのかなと、しかも冬は寒くならないのかなと思って。泉野小は家庭科室が校舎の裏で暗くて寒くて、今の時期に行ったらストーブがないと寒い。それが縦に長いと寒くないのかなと個人的な意見なんですけど。</p>

石田課長	先ほども説明させていただきましたとおり、まずは校庭の方を非常に広く使えるところと教員などがグラウンド管理しやすいというところでの案としての配置となっておりますので、そういったところも検討しながら設計をしていきたいと考えております。
C	朝はいいんですよね。冬なんかは明るい日差しが入りませんし、とにかく寒いっていうのが一番大変だし。建ててしまうとそんなに簡単に壊せませんし。それがちょっと気になったので。
土屋課長	まだ、基本設計をやっていないので、実際の設計もやっていないのですが、いろいろな事例をみていくと、実際は全部が南側の校舎じゃないです。そういった場合には、明るさですとか寒さといった問題が出てくると思います。明るさでいったら、昔の蛍光灯だと暗いですよ。今は、LEDになるので、かなり明るくはなります。毛呂山中学校、川角中学校はLEDが入っているので、かなり明るいです。寒さ、暑さについては、むしろ暑さの方で夏に全然クーラーが効かないとかというようなところで、新聞を見ると断熱材をかなり入れて断熱効果を高める校舎であっても、そういった工夫をしていくようなところもありますので、今回改修というよりは新築の形になりますので、そういったところも今後検討しながらこういった断熱効果があるとかそういったものも含めて検討が必要なものだと思いますので、そういったところも含めて当然造っていきますので。いわゆる日差しだけでやる問題ではないかなと思っていますので。学校は昔のものが多いので、そこだけではなく、今の技術、これからの技術というところも含めて考えていくものもありますので、そういったところは今後お知らせできるのかなと思います。
高沢教育長	比較的、川中はこちら側に雑木林があって、どちらかという西日が入らない方が多いんですね。朝方は、結構東から南からの太陽光が随分入りますので、十分日当たりはいいものになります。ここにバスターミナルを作ったりとかあるいは学童をいれたりとか、この施設の中でできるだけ完結するような作りを今想定しています。グラウンドも結構広いので、野球のスペースも取れて、トラック、あとは導線を考えながら子どもたちの理想の場所となるように。同じように毛呂中の方の増改築につきましても、特に大規模改修ですね、毛呂山小学校の校舎の方も明るく学習にさらに良い環境を設計で考えていきます。両中学校も、大規模改修をして木質化をしました。それによって非常に明るく、中学生の心情面というのでしょうか、綺麗にした環境で子どもたちの学習が非常に和やかになったりします

	<p>し、施設を丁寧に扱う、木のぬくもりの中でということも効果を十分に期待しますので、毛呂山小学校の改修の工事も、それらを想定しながらまた基本設計等進めていくようにさせていただきたいと思います。床が木質化になったり、あるいは廊下の腰板も木でやっていますので、非常にぬくもりのある環境になりました。あと、天井なんかも毛呂山中学校の方では少し廊下の天井を上げて解放感があるような空間を広く見せるような演出させていただいてますので、児童の方にも明るい環境で学習ができる場所を我々も提供させていただきたいと思います。</p>
石田課長	<p>それでは、残すところあと30分となりましたけれども、ご意見の方も十分にお預かりできたということで、ここで一区切りとさせていただきたいのですがよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、教育長さんから総括のほうをお願いします。</p>
高沢教育長	<p>貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。ただいま頂いた意見としましては、今後の計画の中で反映できるところは是非活用させていただきたいと思います。このあと、各小学校・中学校それから一般の方、そして未就学児の保護者の方等についても説明させていただきますが、できるだけ集約したものについては町民の皆様にわかりやすく提供できるようにこちら準備させていただきたいと思います。本日は、ご多用の中お越しいただきまして本当にありがとうございます。今後もぜひ、毛呂山の教育に関してましてご理解ご協力いただきますことをお願い申し上げて感謝の言葉にさせていただきます。ありがとうございます。</p>
石田課長	<p>それでは、以上をもちまして、毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）に関する説明会を終了といたします。</p>